



リム・ポー・テック
〈スリリングな都市#1〉1989年

変貌する社会の新世代
シンガポール現代美術2人展
THE NEW GENERATION IN CONTEMPORARY SINGAPOREAN ART



ベート・ヨック・クアン〈人間と環境〉1988年

したたかな人間観の表れ

中村英樹

この展覧会は、1960年代生まれのシンガポールの若い美術家2人を日本に紹介しようとする画期的な試みである。現代日本の社会のなかから新世代の美術家の動向を導き出してこようとするのと全く同じ観点に立って、シンガポールの現在に目が向けられようとしている。つまり、基盤の違う異文化それ自身の独自性を認めつつ、一面で、世界中同次元であるような人間の表現の問題を積極的に見出そうとする姿勢が、ここにはうかがわれる。

今の日本の美術にとっては、ある外国文化を盲目的に賞讃し摂取することも、別の外国文化を異国趣味的に自らと一線を画して扱うことも、決して好ましいことではない。また、外国文化の伝統や過去の遺産を尊重するとしても、現代に生きる人々の精神的な状況を無視したとしたら、それは片手落ちと言うべきだろう。わたしたちに欠如している可能性の芽を他国の現状のなかから汲み取る努力こそ大切であるに違いない。

シンガポールの最先端の現代美術家は、アジア文化の

歴史の上に立ち、欧米の美術を吸収しながら、根強い人間の在り方を独自に指し示そうとする。その1人が、最近急速に注目されるようになったリム・ポー・テックであって、彼は、うねるような描線の網の目に限りなき生のエネルギーを託して、人間の日常のありのままの姿を浮き彫りにする。熱帯の太陽のごとき明るさによって欲望も猥雑さも、悲しみや諦めさえも包み込んで、したたかに希望への抜け道を探し求める。

ミクスト・メディアによる2次元的な作品や生きた植物が登場する3次元的なインスタレーションを制作するベート・ヨック・クアンは、人間と物質との歴史的なかわりの凝視などを通して、人間と環境との調和や対立に目を向け、人の生命と自然との連続し循環する間柄を追求し、究極的には、人の生と死を照らし出そうとする。外部世界と対立するだけでもなく、外部世界に埋没し同化するだけでもない第3の人間観が示唆的である。

(なかむらひでき……美術評論家)

A Keen View of Humanity

Nakamura Hideki

This landmark exhibition introduces to Japan two Singaporean artists who were born in the 1960s. In a natural extension of the movement to seek out directions among the newest generation of artists in Japanese society, the exhibition focuses on their contemporaries in present-day Singapore. While recognizing that cultures differ fundamentally from one part of the world to another, the exhibition strives to show how these Singaporean artists explore the problems of human existence that people everywhere share.

Contemporary Japanese art should beware of falling into the trap of blindly admiring and accepting the artistic traditions of a certain few countries while treating those of other countries as exotic curiosities. It is a fine thing to value and respect the traditions and artistic legacies of these countries, but it would be a dreadful mistake to ignore the spiritual condition of the people living there today. We must strive to grasp the seeds of possibilities that we lack in ourselves but that thrive in other countries.

While absorbing the influences of the West, Singapore's leading contemporary artists continue to stand deeply rooted within Asian traditions as they endeavor to show their individual views of

the human condition. One such artist who has recently attracted much attention is Lim Poh Teck. He imbues an undulating mesh of lines with an inexhaustible living energy to create candid portrayals of people going about their daily lives. The influence of the tropical sun is felt strongly as are the desires, chaos, and angst that imbue his works with the earnest striving of hope.

Baet Yeok Kuan employs mixed media in his two-dimensional works and features living plants in his three-dimensional installations. Fixing his unrelenting gaze on the historical relationship between man and matter, he focuses on the harmony and conflicts that occur between humanity and the environment and attempts to describe the cycle of human life and the natural world in an exhaustive examination that sheds light on the questions of life and death. He thus presents an alternate view of the human condition, one that sees humanity as being neither in confrontation with nor submerged by the external world.

(Art critic)

シンガポールにおける現代絵画の状況

ベート・ヨック・クワン

芸術は文化活動の中で最も優れた表現力を有することから、あらゆる人々に様々な形を通して受け入れられる存在と言えます。ひとつの文化における芸術的表現は、その文化を共有する人々の一般的な風俗やその特性を知る上で手掛りとなるものを無言のうちに提供しています。したがって地球上のすべての人々を包括するような単独の世界文化というものには存在しえないのです。世界の国々の文化や芸術は誰もが知っているように、ある時突如としてその最盛期を迎えるものではありません。こうした美の極致を見事に開花させるためには、何百年という、いや実際は何千年という長い時間を費やして文化なり芸術をひとつの形に結実させるのです。このように文化や芸術は繊細且つ複雑な存在であることから独断的な定義によって、その文化や芸術を狭い範囲で限定し、理解することは避けなければならないと私は思います。

シンガポールは基本的に多民族によって構成され、しかも移民により成立した複合社会です。中国、マレーシア、インドといった近隣諸国から移住して来た人々で構成されている国がシンガポールなのです。こうして移住して来た人々が彼等独自の宗教あるいは文化的な価値観を携えてシンガポールに来たことから、シンガポールでは多様な文化が受容され、さらにそこから派生した新たな文化や芸術が生み出されています。シンガポールのこうした独自の文化的あるいは芸術的背景こそ、多様な芸術を生み出し、またそれを享受する基盤となっているのです。

しかし、シンガポールの芸術・文化は多くの異文化が複雑にからまり構成されているというこの特色は、他方、明瞭な統一性、もしくはいわば独自の「シンガポールの」な特徴に欠けるともいえます。1930年代までシンガポールでは、国家レベルでの独自の文化活動を行うことは一切ありませんでした。こうした機運が到来したのは1938年にリム・ハック・タイ氏がシンガポールに芸術専門学校である南洋美術専科学院を創立したのがその始まりでした。以来同校は創立52年を経た今日でも伝統ある美術専科学院として知られ多くの芸術家を世に送っています。

今日シンガポールにおける絵画の現状はおおよそ次のような3つのジャンルに分けられます。

第1番目は伝統的な中国絵画です。1950年代までの中国画家が対

象とする絵画のモチーフは風景、人物、植物、動物が主流を占めていました。しかし、50年代以降はそのモチーフにも変化の兆しが現れ、地域に根ざした固有の風景あるいは近代的なモチーフを生かした絵画など、扱うテーマも従来の絵画には見られないさまざまな対象に画家の目が向けられるようになりました。また技法においても以前よりはるかに多様な方法も試みられています。

第2番目はろうけつ染め技法を駆使したバティックを媒体とする絵画表現が上げられます。これはマレーの人々の独特なろうけつ染め技法を生かした絵画表現とも言えます。従来、バティックに現れたモチーフは熱帯雨林、そこからもたらされるさまざまな所産物や宝物、あるいは伝統的な民族の文様・意匠などを描写したものから始まり、現在ではさらに躍動感みなぎる豊かな色彩や形を表現できるものへと発展を遂げてまいりました。今日では、バティックは現代の抽象芸術、あるいはジェット機で世界中を駆け巡る現代の人々の心にもアピールする芸術表現のひとつとして人々を魅了し、確固たる地位を築いています。

第3番目は現代の主流を占めるモダン・アートの領域です。これは風景や植民地時代の人々の日常的な風景を描くヨーロッパの絵画からスタートし、保守あるいはポスト・モダンと呼ばれている現代の様々な芸術へと発展を遂げてまいりました。

シンガポールにおける新たな芸術活動の発展は、先進国より遅れているものも事実です。しかし近年、無名の若手画家による絵画が全国の展覧会に出品されるようになってきています。事実こうした若手の画家達の台頭は非常に歓迎されています。

シンガポールは創作活動あるいは表現活動が自由にできる非常に幸運な立場にあります。芸術家達も、東洋的あるいは西洋的な手法や、または伝統的な技法など、さまざまな方法の中から最も適した表現方法を選択することができます。またその芸術表現が仮に反社会的なものにせよ受け入れられる文化的土壌があります。このように自由で闊達な芸術表現を容認するのがシンガポールなのです。芸術家がいかなる道を選択したにせよ、異なった芸術様式を受け入れ、それらが互いに触発しあい、さらに発展を遂げていくことに最大の援助を惜しみません。それに因って真にシンガポール独自の芸術創造への道が開かれていくのだと私は確信しています。

An Introduction to Contemporary Painting in Singapore

Baet Yeok Kuan

Art is the most expressive element of any culture, and as such it should receive high recognition. The art of a culture also provides us with many clues that help in identifying the nature and character of the people of that culture. There is no single world culture that embraces all of the peoples of the globe. Neither are the cultures and arts of the world's many nations simple creations that suddenly appeared in full bloom overnight. They required centuries -- indeed, millennia -- in order to put forth blossoms of beauty; they are exquisite and complex entities that must not be limited by arbitrary definitions.

Singapore is basically a multi-racial, immigrant society that is populated from peoples from neighboring countries such as China, Malaysia, and India. Since all of these people brought their own religious beliefs and cultural values, Singapore is blessed with varied and numerous art forms deriving from many cultures.

Nevertheless, the various multi-cultural forms of art in Singapore lack any definite unity or independent "Singaporean" character. On a national level, Singapore did not engage in any cultural activities until the 1930s. In 1938, Mr. Lim Hak Tai established the first art school in the country, the Nanyang Academy of Fine Arts, which still thrives after these 52 years.

Today, the genre of painting in Singapore can be divided into three major categories.

First, is the medium of traditional Chinese painting. For themes, the Chinese-style painters focused upon landscapes, portraits, flora, and fauna until the 1950s; since then, they have widened their

palette to include local scenes and modern situations, and their art has become much more multi-faceted.

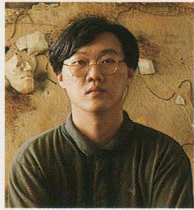
Second, is the medium of batik painting, the wax-resist dyeing art of the Malay people. It has evolved from depicting only the tropical forests and its treasures and traditional folk designs into an art form that can also capture the vibrant shapes and colors and modern abstract art and the jet-age in which we live.

Third, is the medium of modern art, the category of painting that has become the dominant form today. It developed from the European-based painting of landscapes and scenes from the everyday life of the people in the colonial period into the varied art form it is today, be it expressed in a conservative or post-modern mode.

In Singapore, the development of a new art form comes later than developed countries. It is only in recent years that we have begun to see the fresh new paintings of unknown young artists appear in exhibitions throughout the land, and their advent is almost welcome.

We are lucky in that we can enjoy the freedom of creation here in Singapore; artists are completely free to follow any path they wish, be it art in an Oriental or a Western style, be it art in a traditional or a rebellious mode. But whichever path Singapore's artists choose to follow, we must not only allow all of the different art forms that appear to exist, we must also help them to flourish, in order that we may be able to see and develop a type of art that can truly be called Singaporean.

ベート・ヨック・クアン



- 1961 シンガポールに生まれる
- 1984-88 南洋美術専科学院絵画科 (シンガポール) 卒業
- 1989- 南洋美術専科学院 (シンガポール) 講師
- 個展**
- 1988 国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
- 主なグループ展**
- 1984 国慶美術展、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
第20回国民展、ワールド・トレード・センター、シンガポール
- 1986 オーストラリア賞・ヤング・アーティスト'86展、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
第4回アセアン青年絵画ワークショップ、マニラ、フィリピン
- 1987 新しい方向展、モダン・アート・ソサエティ、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
国立博物館開館百周年記念展、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
シンガポール現代美術家展、サロン・デ・アルティスト・フランセ、グラン・パレ、パリ、フランス
- 1988 シンガポール芸術祭、モア・ザン・フォー展、Sjiビル、シンガポール
- 1989 ザ・アーティスト・ビレッジ・オープン・スタジオ展、アーティスト・ビレッジ、シンガポール
第1回アセアン絵画写真児童画巡回展、ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ
第2回アジア美術連盟展、マレーシア
自然環境展、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
- 1990 シンガポール芸術祭アイ・21美術展、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
南洋美術専科学院レクチャー&美術展、タイ
モダン・アート東から西へ展、オランダ
- 受賞**
- 1984 南洋美術専科学院水彩画展で1等賞受賞 (シンガポール)
- 1985 南洋美術専科記念展で美術部門優秀賞受賞 (シンガポール)
- 1986 オーストラリア芸術賞・ヤング・アーティスト'86展で奨励賞受賞、国立博物館アート・ギャラリー (シンガポール)
南洋美術専科学院記念展で美術部門優秀賞受賞 (シンガポール)
- 1987 ユナイテッド・オーバー・シーズ銀行主催ペインティング・オブ・ザ・イヤー展で大賞受賞 (シンガポール)
- 1989 IBM芸術賞展で2等賞受賞 (シンガポール)
- 1990 ストサ彫刻・デザイン展で佳作賞受賞 (シンガポール)

Baet Yeok Kuan

- 1961 Born in Singapore
- 1984-88 Diploma of Painting, Nanyang Academy of Fine Arts, Singapore
- 1989- Lecturer, Fine Arts Department, Nanyang Academy of Fine Arts, Singapore

SOLO EXHIBITION

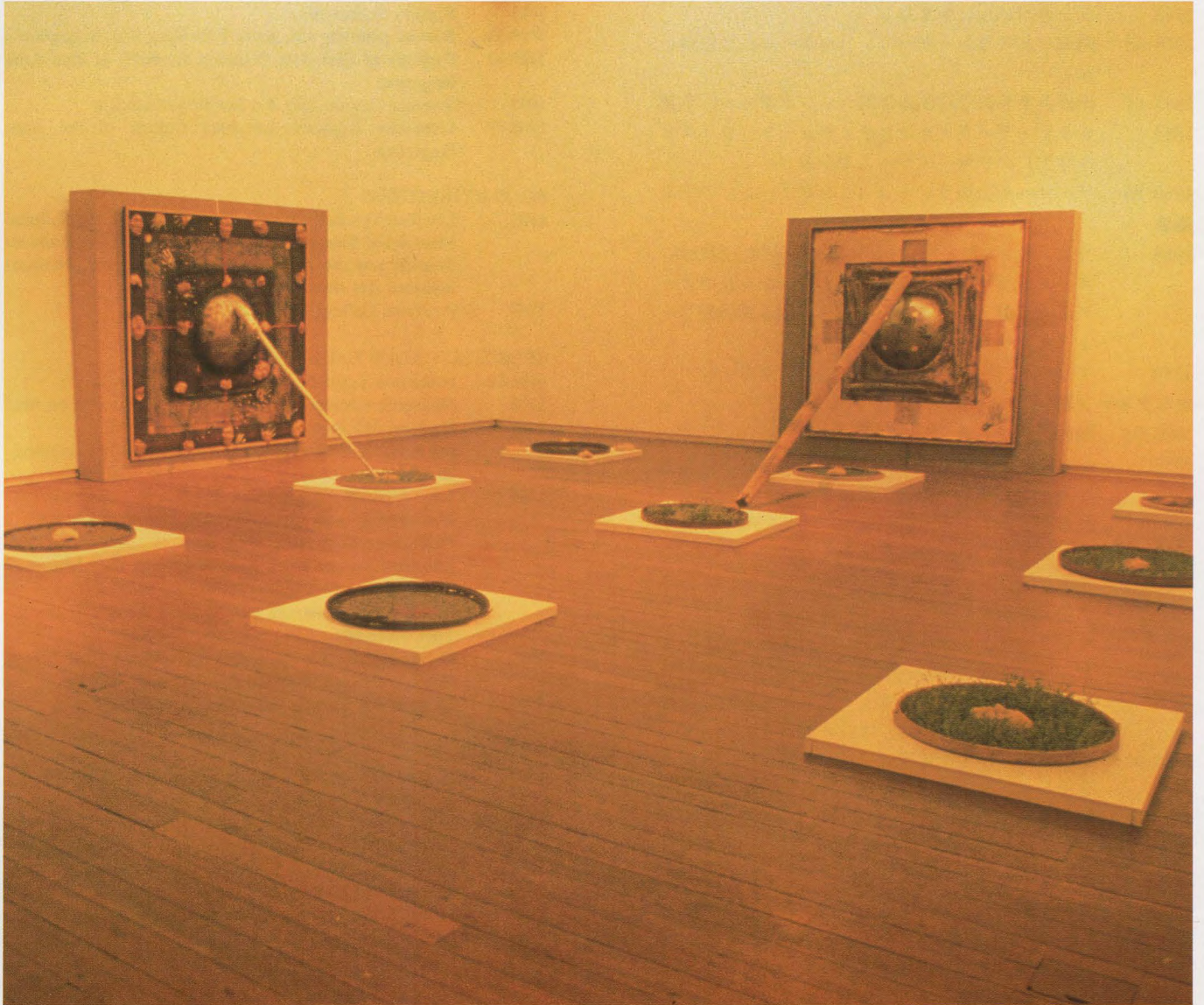
- 1988 National Museum Art Gallery, Singapore

SELECTED GROUP EXHIBITIONS

- 1984 National Day Art Exhibition, National Museum Art Gallery, Singapore
20th National Exhibition, Demonstration and Exhibition, World Trade Centre, Singapore
- 1986 Australian Art Award for Young Artist '86 Exhibition, National Museum Art Gallery, Singapore
4th ASEAN Youth Painting, Workshop and Exhibition, Manila, Philippines
- 1987 New Direction, Modern Art Society, National Museum Art Gallery, Singapore
National Museum Centenary Art Exhibition, National Museum Art Gallery, Singapore
Artistes Contemporains de Singapore, Salon des Artistes Français, Grand Palais, Paris, France
- 1988 Singapore Festival of Arts, Projects: More than Four, Sji Building, Singapore
- 1989 The Artist Village Open Studio Show, Artist Village, Singapore
1st ASEAN Travelling Exhibition of Painting, Photography and Children's Arts
2nd Exhibition of Federation of Asian Art Association, Malaysia
Exploration of Nature - 4 Contemporary Artists Exhibition, National Museum Art Gallery, Singapore
- 1990 Singapore Festival of Arts, Eye 21 Art Exhibition, Singapore Nanyang Academy of Fine Art Lecture Art Exhibition, Thailand
Modern Art Travels East-West, Netherlands

AWARDS

- 1984 1st Prize, Academy Water Color Competition, Nanyang Academy of Fine Arts, Singapore
- 1985 Distinction Award Fine Arts Section, Anniversary Art Exhibition, Nanyang Academy of Fine Arts, Singapore
- 1986 Merit Prize, Australian Art Award for Young Artists '86 Competition, National Museum Art Gallery, Singapore
Distinction Award Fine Arts Section, Anniversary Art Exhibition, Nanyang Academy of Fine Arts, Singapore
- 1987 Grand Prize, Painting of the Year Competition, United Overseas Bank, Singapore
- 1989 2nd Prize, IBM Art Award Competition, National Museum Art Gallery, Singapore
- 1990 Honorable Award, SENTOSA Sculpture Design Competition, Singapore



〈人間と環境〉
1988年
ミクスト・メディア

"Man and Environment"
1988
mixed media

リム・ポー・テック



- 1963 シンガポールに生まれる
1978-83 画家リム・カン・キー（シンガポール）に絵画を学ぶ
1983-87 南洋美術専科学院美術学科（シンガポール）卒業
1987 シティ・アート・インスティテュート（オーストラリア）のサマー・コースで学ぶ
1988-89 ラ・サール芸術カレッジ（シンガポール）で学ぶ

個展

- 1988 リム・ポー・テック展、シンガポール国立博物館、オーストラリア・ビジネス・カウンシル及びオーストラリア・ハイコミッション、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
1989 アート・ベース・ギャラリー、シンガポール

主なグループ展

- 1986-90 国内グループ展、シンガポール
1988 シンガポール芸術祭、フリンジ展、国立博物館アート・ギャラリー、シンガポール
第6回アセアン青年絵画ワークショップ、ブルネイ
1989 第1回アセアン絵画写真児童画巡回展、ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ
インターナショナル美術展、ワークショップ、東マレーシア、マレーシア
"メトロ・マニア" オーストラリアと近隣地域のアーティストの交流1989、オーストラリア
1989-90 シンガポール現代美術展—東西の出会い、西独/オランダ
1990 モダン・アート—東から西へ展、オランダ
受賞
1986 オーストラリア芸術賞・ヤング・アーティスト'86展でシティ・アート・インスティテュート奨学金（オーストラリア）
1988 IBM芸術賞展で奨励賞受賞（シンガポール）
1989 IBM芸術賞展で3等賞受賞（シンガポール）
1990 ユナイテッド・オーバー・シーズ銀行主催ペインティング・オブ・ザ・イヤー展で大賞受賞（シンガポール）

Lim Poh Teck

- 1963 Born in Singapore
1978-83 Studied painting with Artist Lim Kang Kee, Singapore
1983-87 Diploma of Fine Arts, Nanyang Academy of Fine Arts, Singapore
1987 Summer Course, City Art Institute, Australia
1988-89 Licentiate Diploma, La Salle College of the Arts, Singapore

SOLO EXHIBITIONS

- 1988 Lim Poh Tek Retrospective Exhibition 1988, the National Museum of Singapore, the Singapore Australia Business Council and the Australia High Commission, National Museum Art Gallery, Singapore
1989 Art Base Gallery, Singapore

SELECTED GROUP EXHIBITIONS

- 1986-90 Numerous Local Exhibitions in Singapore
1988 Singapore Festival of Arts, Fringe Program: Step on Art, National Museum
6th ASEAN Youth Paintings, Workshop and Exhibition, Brunei Darussalam
1989 1st ASEAN Travelling Exhibition of Painting, Photography and Children's Art, Indonesia, Malaysia, Philippines, Singapore, Thailand
International Art Exhibition, Workshop, East Malaysia, Malaysia
Metro Mania-Australia and Regions Artist's Exchange 1989, Australia
1989-90 Contemporary Art of Singapore -Where East Meets West, West Germany/Netherlands
1990 Modern Art Travels East-West, Netherlands

AWARDS

- 1986 Winner of City Art Institute Scholarship, Australia Art Award for Young Artists
1988 Merit Prize, IBM Art Award Competition, National Museum Art Gallery, Singapore
1989 3rd Prize, IBM Art Award Competition, National Museum Art Gallery, Singapore
1990 Grand Prize, Painting of the Year Competition, United Overseas Bank, Singapore



《戦争》

1989年
チャイニーズインク・クレヨン・紙
90×185cm

"War"
1989
chinese ink with crayon on paper
90×185cm



《求愛する女性》

1989年
チャイニーズインク・クレヨン・紙
55×75cm

"Woman going to make love"
1989
chinese ink with crayon on paper
55×75cm

変貌する社会の新世代—シンガポール現代美術2人展

国際交流基金アセアン文化センター・ギャラリー

1990年12月13日(木) — 12月26日(水)

主催: 国際交流基金アセアン文化センター

[アーティスト・トーク]

「シンガポール現代美術の周辺」

1990年12月8日(土) 午後2時 — 午後4時

国際交流基金アセアン文化センター・ギャラリー

パネリスト:

ベート・ヨック・クワン(シンガポール現代美術家)

リム・ポー・テック(シンガポール現代美術家)

榎倉 康二(東京芸術大学助教授)

コーディネーター: 中村 英樹(美術評論家)

編集 ————— 国際交流基金アセアン文化センター

企画協力 ————— 中村 英樹(美術評論家)

デザイン・制作 ————— 株式会社 プリント・センター

発行 ————— 国際交流基金アセアン文化センター

東京都渋谷区宇田川町34-5 サイトーⅢビル3F(〒150)

Phone: 03-780-6391

©1990 国際交流基金アセアン文化センター(禁無断転載)

The New Generation in Contemporary Singaporean Art

The Japan Foundation ASEAN Culture Center Gallery

13 December-26 December 1990

Sponsored and Organized by

The Japan Foundation ASEAN Culture Center

[ARTISTS TALK]

“The Present Situation of the Contemporary Singaporean Art World”

8 December, 1990 2:00p.m. — 4:00p.m.

The Japan Foundation ASEAN Culture Center Gallery

Panelists:

Baet Yeok Kuan (Contemporary Artist)

Lim Pom Tek (Contemporary Artist)

Enokura Koji (Associate Professor, Tokyo National University of Fine Arts and Music)

Coordinator: Nakamura Hideki (Art critic)

Edited by

The Japan Foundation ASEAN Culture Center

Coordinated by

Nakamura Hideki (Art critic)

Designed and Produced by

Print Center Co., Ltd.

Published by

The Japan Foundation ASEAN Culture Center

Saito Ⅲ Bldg., 3rd Fl 34-5, Udagawa-cho, Shibuya-ku, Tokyo 150

Phone: 03-780-6391

1990 by the Japan Foundation ASEAN Culture Center

© All rights reserved